

虚子記念文学館投句特選句

・令和三年六月

稲畑汀子 選

滾つ瀬を膝で捌きつ鮎を釣る

滋賀

石川多歌司

虚子館や虚子の机は黴てゐず

新潟

安原 葉

虚子館の句座なら梅雨を憂しとせず

大阪

徳岡美祢子

軽暖の業平橋に風の舞ふ

兵庫

阿曾宏之

梅雨の灯に濡れ表紙絵の金光る

兵庫

玉手のり子

あぢさゐのいろすきとほる雨上り

兵庫

武田奈々

(青少年)

螢火の闇に水辺の匂ひくる

兵庫

奥田好子

教会の鐘遠きより五月晴

兵庫

永沢達明

遠き蟻気づけば足の裏に蟻

兵庫

塚本武州

草取りの帽と軍手にあるおしやれ

兵庫

三木雅子

入選句・令和三年六月

十葉の群れて余白のなき庭に	京都	山崎貴子
一鉢を占領したる根切虫	兵庫	吉村玲子
虚子館へかつら新樹をみな仰ぎ	兵庫	藤井啓子
青梅のあをより庭の明けてきし	鳥取	前田 千
日常を置き去りにして梅雨深し	兵庫	深尾真理子
水見舞して知る地球温暖化	奈良	好川忠延
言葉より心配りの水見舞	兵庫	岩水ひとみ
でで虫の歩みは確か遅くとも	兵庫	小杉伸一路
散り敷くも庭は寂しく薔薇名残り	奈良	芳林淳子
雨後の庭伸びたる草を引く日課	兵庫	入谷千恵子
我もまた里子の運命ほととぎす	兵庫	伊藤秀子
降り初めし雨に紫陽花風情そふ	大阪	辻 昌子
時鳥山の空気を突き進む	兵庫	山口弘子
草取や日の出の頃を切りと決め	兵庫	山岸正子
草引や立ちて座りて小半日	兵庫	大西美知子
草引の案内寺院の掲示版	兵庫	山崎渺美
帰省する計画中止コロナの禍	兵庫	小川孝子
軽鳧の子の育つてをりし芦屋川	兵庫	長安悦子
夜のとばり蛍の命湧き出づる	奈良	堀ノ内和夫
夜濯や人工衛星みつからぬ	東京	木村三球
轟いてあつさり去りぬ梅雨の雷	兵庫	田村恵津子
能面のうすきくちびる五月闇	兵庫	武田優子
降りさうな梅雨空支へ桂の木	兵庫	横山脩子
二日目の蛾や面舵の十度ほど	兵庫	キートスばんじょうし
新生姜甘酢にひらく薔薇の色	神奈川	小堀公美子
風に乗り風を操り糸蜻蛉	兵庫	藤澤みか子
植田への引き水清し水車小屋	兵庫	高市敦之
蚊火の香をぬけ虚子館の表紙絵展	兵庫	岩鼻絹子
苜蓿の花冠の地蔵様	愛知	小野 薫
十葉の群れて余白のなき庭に	兵庫	前田容宏
虚子館へかつら新樹をみな仰ぎ	大阪	徳永由起子
青梅のあをより庭の明けてきし	大阪	徳永由起子
日常を置き去りにして梅雨深し	兵庫	生嶋わこ
水見舞して知る地球温暖化	兵庫	細田清子
言葉より心配りの水見舞	大阪	生澤瑛子
でで虫の歩みは確か遅くとも	兵庫	高橋純子
散り敷くも庭は寂しく薔薇名残り	兵庫	槌橋真美
雨後の庭伸びたる草を引く日課	兵庫	小林志乃
我もまた里子の運命ほととぎす	兵庫	山ノ口倫子
降り初めし雨に紫陽花風情そふ	大阪	山下幸典
時鳥山の空気を突き進む	兵庫	川村ひろみ
草取や日の出の頃を切りと決め	兵庫	内田泰代
草引や立ちて座りて小半日	兵庫	宮本露子
草引の案内寺院の掲示版	兵庫	西村みどり
帰省する計画中止コロナの禍	大阪	杉山千恵子
軽鳧の子の育つてをりし芦屋川	兵庫	平田 恵
夜のとばり蛍の命湧き出づる	石川	辰巳昌彦
夜濯や人工衛星みつからぬ	兵庫	片岡東子
轟いてあつさり去りぬ梅雨の雷	石川	村上秀吾
能面のうすきくちびる五月闇	大阪	田邊育子
降りさうな梅雨空支へ桂の木	大阪	辻田あづき
二日目の蛾や面舵の十度ほど	兵庫	中井陽子
新生姜甘酢にひらく薔薇の色	兵庫	近藤ゆき
風に乗り風を操り糸蜻蛉	兵庫	池田雅かず
植田への引き水清し水車小屋	兵庫	辻 桂湖
蚊火の香をぬけ虚子館の表紙絵展	大阪	山田 天
苜蓿の花冠の地蔵様	石川	辰巳葉流
雪満つアガパンサスは梅雨の色	兵庫	前田容宏
ふるさとに鬼棲む山や風薫る	大阪	徳永由起子
蜜豆で誘ひ出したる下戸の彼	兵庫	生嶋わこ
芦屋川水音濁る梅の雨	兵庫	細田清子
新樹てふ樹々の命の光り合ふ	大阪	生澤瑛子
ままごとの児等に焚きたる蚊遣かな	兵庫	高橋純子
烏賊と目を合はさぬやうに捌きけり	兵庫	槌橋真美
人ごゑは瀬音に吞まれ蚊遣かな	兵庫	小林志乃
再会も一会も叶ひ樹下涼し	兵庫	山ノ口倫子
大儲けの甘き夢見て明易し	大阪	山下幸典
額紫陽花うれし涙の光留む	兵庫	川村ひろみ
万緑の虚子館に寄す句の心	兵庫	内田泰代
人出なき街を沈めて梅雨深し	兵庫	宮本露子
梅雨晴のランチオリーブソース掛け	兵庫	西村みどり
梅雨晴間伸びする木々の香の著き	大阪	杉山千恵子
梅雨霧の晴れて流れの芦屋川	兵庫	平田 恵
黒南風や雨も従ひ芦屋川	石川	辰巳昌彦
香り立つ茅の輪をくぐり神の前	兵庫	片岡東子
久闊を叙する虚子館句座涼し	石川	村上秀吾
朴の花散りし花卉に溜めし雨	大阪	田邊育子
青梅の一粒づつが日に当たる	大阪	辻田あづき
メンバーに汗の一日となる予感	兵庫	中井陽子
田舎では守宮と遊ぶ子供あり	兵庫	近藤ゆき
マロニエの葉蔭に覗く梅雨晴間	兵庫	池田雅かず
蜘蛛の糸ひとすぢ光り日の沈む	兵庫	辻 桂湖
老鶯のひと声に山去りがたし	大阪	山田 天
学ぶことなほ集中の蚊火の館	石川	辰巳葉流

青梅雨や微睡む赤子げつぷをす

神奈川 平野孤舟

辺つ風に払ひ落とせり松落葉

東京 志村日出男

青梅雨や花手水より亀出でて

埼玉 土井洋子

螢火や舞ひ上がりては星になる

神奈川 金子三奈乃

師を思ひをれば風鈴鳴りにけり

神奈川 進藤剛至